令和８年度　東京都立足立西高等学校　学校経営計画

校長　　都　倉　　里　利

Ⅰ　目指す学校

１　スクール・ミッション

社会の有為な形成者として、人権尊重の精神に基づき、国際社会において平和と文化の進展に寄与する資質を養うことを目指して、自己と他者の良さを協働的に生かしながら、地域社会に貢献し様々な社会変化に積極的に対応する生徒を育成します。

２　スクール・ポリシー

（１）グラデュエーション・ポリシー

○　探究力、自発力、自己管理能力を育成し、社会の有為な形成者として活躍できる生徒

○　自己と他者の良さを協働的に活かし、ボランティアマインドを持った生徒

（２）カリキュラム・ポリシー

○　自ら将来を切り拓く力を持った生徒を育成する。

探究学習、進路実現システム、行事、部活動等を通して、自己肯定感や進路実現へのモチベーションを高める。

○　社会の一員として活躍できる生徒を育成する。

地域交流、国際交流、インターンシップ、ボランティア活動など特色ある取り組みを通して、多様性を尊重し、共生社会の中で主体的に社会的役割を果たせる資質、能力を高める。

（３）アドミッション・ポリシー

○　常に主体的に学力向上に取り組む姿勢のある生徒

○　積極的にチャレンジする意欲のある生徒

○　部活動、生徒会・委員会活動、学校行事、地域ボランティア活動や資格取得に意欲的に取り組み継続できる生徒

Ⅱ　中期的目標と方策

１　目標

（１）意欲的、主体的に取り組む学習習慣を確立する。

（２）規範意識を身に付けて基本的生活習慣を確立する。

（３）部活動や学校行事等特別活動の活性化を図る。

（４）高い志を育み、生徒の自己実現を図る。

（５）国際交流など特色ある学校づくりを進める。

（６）組織的な広報活動の一層の充実を図る。

（７）業務の効率化と人材育成を両立させ、持続可能な学校組織を構築する。

２　方策

（１）教科指導力向上及び授業改善を継続して行うとともに、育成すべき生徒像を明確にした教育課程編成と教科指導内容の充実を図る。また、ICT を活用した学習の質的転換を進め、主体的な学習習慣を確立する。

（２）あらゆる機会を通して、社会人として備えるべき常識やマナー、規範意識を身に付けさせ、教育相談機能を充実させて生徒理解を進めるとともに、生徒が安心・安全な学校生活

を送れる環境の提供を実現する。
（３）部活動や行事等の特別活動において連帯感や学校への帰属意識と自己有用感を醸成し、努力することの大切さや達成感を体感させる。
（４）３年間を見据えたキャリア教育全体計画を推進し、継続したデータ分析、及び定点観測によるきめ細かな進路指導を実施し、生徒の希望進路の実現を図る。
（５）韓国への海外研修旅行等をはじめ国際交流を充実させ、世界で活躍できる人材の育成を図る。
（６）保護者・地域及び中学校等に対して、本校の特色ある教育活動を積極的に情報発信し、募集対策の充実を図る。
（７）業務内容の共有、研修の充実、AI の効果的な活用等を通し、誰もがあらゆる校務を一定程度担うことができる力を身につけさせる。

Ⅲ　今年度の取組目標と方策

１　学習指導

（１）指導上の課題を共有し観点別評価等を適切に実施するために、教科会や研修会等を充実させる。
（２）スタディサプリ等を自宅学習の到達度確認に計画的に位置付け、活用率向上を図るなど、生徒の学習習慣の確立と学力向上に活用する。
（３）基礎学力の定着と向上を図るために、数学、英語での習熟度別少人数編成授業等を充実させる。
（４）分かる授業の実現や生徒の学力向上のために、ICT や一人１台端末等を活用して Office365 を効果的に運用し、協働的・探究的授業を推進する。
（５）生徒の学習意欲喚起と資格取得を図るために、各種検定の受検を促す。特に英語に関しては検定試験や TGG での学習等を連携させグローバル人材育成を目指す。
（６）生徒の探究的な態度を育成し「生きる力」を育むために、すべての教科で言語活動を重視し、読解力、表現力を育成する。その際、図書館専門員等と連携し、全教科で読書活動・言語活動を一層充実させるために効果的に図書館を活用する。
（７）授業力向上のために教員相互の授業見学や校内研修を充実させる。また、若手教員を中心とした相互授業見学・実践共有の制度化を検討する。

２　生活指導（重点目標）

（１）挨拶、時間厳守、制服の着用等守るべきルールの徹底に向け、全教職員による不断の働きかけを継続するとともに、背景理解と改善支援を重視する。ヘルメットの着用等自転車乗車ルールの順守に向けて指導を継続する。
（２）美化意識向上のために、日常の清掃活動やごみ分別の徹底を図る。
（３）「自助」「共助」の精神を養い、災害対策の充実やボランティアマインドを育成するために、防災教育を推進する。
（４）薬物乱用防止や自転車事故の防止、SNS 上でのトラブル防止等、心身ともに健全な生徒の育成を図るために、セーフティ教室等を活用して危険回避能力の向上や人権的な視点の指導を行う。
（５）きめ細かい生徒理解に努め、いじめの未然防止、早期発見・対応を行うために養護教諭、特別支援コーディネーター及びスクールカウンセラーとの連携を強化して教育相談機能を充実させるとともに、生徒の学校での居心地の向上を図る。
（６）自他の存在及び生命を尊重する態度を育成してレジリエンスを高め、自殺予防対策の教育を進めるとともに、男女平等の精神に基づいて、豊かな男女の人間関係を築けるように

するために、教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いを大切にする。

・数値目標　年間遅刻延べ回数　：6,500 回以下
生徒の特別指導件数　：12 件以下

３　特別活動・部活動（重点目標）

（１） 主体性を育み、達成感や自己有用感を味わう機会とするために、体育祭、文化祭等の学校行事の充実を図る。

（２）学校生活全般の充実を図るために、部活動での各種大会への参加や部を主体とした人間関係形成と自己理解を促進する。また、活動方針等を明確にして、体罰や暴力的指導や行き過ぎた指導のない計画的な部活動を行う。

（３）地域交流や地域貢献活動・国際交流などの充実を図るために組織的な取組を進め、部活動や生徒会を活性化させる。

（４）豊かな国際感覚や多様性を尊重する精神を培うために、学校 2020 レガシー教育やインクルーシブ教育、国際交流事業を活用する。

（５）生徒の基礎体力向上及び健康の保持増進を図るために、部活動及び体育の授業等を活用する。

（６）図書館の利用を促進し、読書活動を推進する。

（７）ボランティア活動を学校行事・委員会活動等と関連付けるなど、ハードルを下げることで参加促進を図る。

・数値目標　部活動加入率　：68%以上
生徒の学校行事(体育祭・文化祭)満足度肯定回答　：90%以上
ボランティア活動への参加生徒延べ人数　：100 人以上

４　進路指導（重点目標）

（１）安易な進路選択者や進路未定者を減らすために、３年間を見据えたキャリア教育全体計画をもとに、学年及び進路指導部が連携して組織的、計画的に進路指導を行う。

（２）進路実現システムを軸に、より高い目標に進むことを促すために、組織的・計画的な学習プログラムを実施するとともに、模擬試験、検定試験等を積極的に活用する。

（３）個々の生徒への理解と支援に努め、きめ細かい指導を行うために、個別面談、三者面談を充実させ、生徒・保護者に継続した働きかけを行う。

（４）生徒一人一人の希望に応じた進路指導のために、外部試験の迅速なデータ検証を基に分析会等を実施し、教科指導の改善、指導に反映させる。

（５）社会体験や働くことの重要さを理解させるために、区役所等、地域の事業所と連携した１学年全員を対象とするインターンシップ体験を行う。

（６）公民としての権利と義務を自覚させ成人としての態度を育成するために、キャリア教育全体計画をもとに、主権者教育、消費者教育、租税教育、年金教育等を充実させる。

・数値目標　進路決定率　：95%以上
進路指導満足度肯定回答　：90%以上
授業外講習参加生徒延べ人数　：700 人以上

５　募集・広報活動

（１）部活動・行事・授業の様子等日常の教育活動を計画的かつ機動的に情報発信するために、更新の分担体制を明確化してホームページ、X、「東京動画」等を積極的に活用する。

（２）本校の良さや特色を PR するために、近隣地域との交流を積極的に行う。

（３）学校内外における学校説明会、学校見学会及び授業公開を充実させる。

・数値目標　ホームページ年間更新延べ回数　：150 回以上

６　学校経営・組織体制（重点目標）

（１）デジタル技術や外部人材の活用により業務の縮減・効率化を図るとともに、教職員の計

画的な年休取得を奨励し、ライフ・ワーク・バランス推進する。
（２）体罰・個人情報管理・会計等、服務事故を根絶するために、服務研修の定期的な実施やクリーンデスクの励行を行う。
（３）経営参画型の経営企画室として機能させるために、経営企画室の業務の進行管理の徹底と合理化を進めるとともに、教員と情報交換を行う機会の増加に努める。
（４）企画調整会議、職員会議等の運営改善及び業務の効率化、情報共有の迅速化を図るために、TAIMS 等を積極的に活用する。
（５）教員の人材育成及び能力、専門性の向上を図るために、計画的な OJT、校内研修を実施するとともに、メンター体制の構築を強化する。
（６）社会の変化を見据え、教職員を中心に LGBTQ 等への理解を深める。
（７）特別な支援が必要な生徒を適切に把握し、効果的な支援体制の確立を図る。
（８）主幹会議の設置について検討する。

・数値目標

教員の年休取得日数の年間平均	：15.0 日以上
勤務時間外の在校時間が月 45 時間超の延べ人数	：ゼロ
特別支援教育・教育相談に関する委員会の開催回数	：10 回以上